

令和6年度 上溝高等学校 3年進路説明会 校長あいさつ

○校長の内田勝久です。上溝高校、二年目となります。よろしくお願いします。

○本日は、お忙しい中、3学年保護者対象進路説明会にご参加いただき、厚くお礼申し上げます。  
生徒の進路決定というのは、私たち学校の教員と生徒とで行うわけではなく、保護者の皆さまを含め、生徒・保護者・学校の3者が「共通理解」「共通認識」を持ちながらすすめていくこととなります。  
そのことから、本日、このようにご参加いただける保護者の皆さまには、ありがたく、感謝の気持ちでございます。

○冒頭、私からお子様が進路を選択する上で、一つのことをお話したいと思います。

●**受験校をどのような観点で選択するか。**ということです。現在の大学の受験別による合格者の状況を見てみると、本校では、「学校推薦型」選抜による合格者の割合が約55%を占めています。本校の生徒に限らず、受験生は、「学校推薦型」選抜により一足先に合格を決めてしまいたいと思う悪い事ではありません。

ただ、残念なことに余りにも安易な考えで「学校推薦型」の一つである「指定校推薦」に頼ってしまう生徒がいるということです。例えば、学力的に非常に力があり、一般選抜で勝負しても十分可能性がある生徒が、本当に行きたいと思っている大学ではなく、安定を求め、指定校推薦によって意中ではない大学へと進学を決めてしまう、あるいは、第1回目の指定校推薦で選考から外れてしまった生徒が、2回目の指定校推薦募集で、自分が将来思い描いているビジョンとはかけ離れていたとしても、まだ枠の残っている大学に手をあげ、その学校に合格し、次年度から通うというケースです。

もちろん、受験する要件を満たしていれば、学校側は応募することをとがめることはありませんが、大学進学後に本人がそれで満足するのか、やる気と生きがいを持って4年間学び続けることができるのかどうかという点において少々疑問を感じています。

なぜなら、かつて私が担任をもった生徒の中に、同様の生徒が何人もいて、その生徒の中には、大学進学後にやりがいを見出せず、退学してしまった子を見ているからです。その生徒たちの話を聞くと、共通して言うことは、「妥協しないで頑張ればよかった」という言葉です。保護者からしてみれば、大学に入るために支払った入学金と1年間の授業料が無駄になるということです。私立大学であれば学校や学部にもよりますが、150万円から200万円はかかると思います。また、退学して違う大学に入りなおせば、同額の金額が必要になってくるということです。

もし、お子様が妥協し安易な方向に流されそうになっていたら、ぜひ勇気が出るような言葉をかけていただき、背中を押してほしいと思います。肝心なことは、最終的な決定は本人に任せるということです。たとえ、保護者の思いと乖離していたとしても、最終的な決定は本人の意思がどこにあるかを尊重することが大切だと思います。

○本日、さまざまな情報を提供させていただくことになります。何か疑問等がございましたら、遠慮なく質問等していただきますようお願いいたします。

以上